

# ゆめ わらわ 夢 章

菅波 茂

6月29日。東京にある台北駐日経済文化代表處の徐鼎昌・政務組次長からAMDAと日本医師会にメールを同時にいただいた。「6月の27日に新北市のレジャー施設のイベント中に起きたカラーパウダー粉じん爆発事故で500人以上の熱傷患者が発生。人工皮膚が大量に不足。提供は可能かと。熱傷治療は特別の専門性と医療チームが求められる。AMDAと日本医師会の共同プロジェクトとしての対応が決定した。

7月2日午前10時。羽田空港から台北市松山空港に、日本の熱傷治療の第一人者であり日本集中治療医学会理事長である氏家良人川崎医科大学救急科教授と私の2人で到着。台湾政府外交部の林郁慧さん、台湾医師会の蔡明忠秘書長、台湾路竹会の劉啟群会長の出迎えを受け、台湾医師会館に直行。蔡秘書長や呉運東元医師会長との打ち合わせの後に記者会見。「2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災者に対する台湾からの多大な支援に、少しでも恩返しのできればうれい」と相互扶助の思いを述べた。

台北市内にある三軍総病院(陸、海、空軍)の熱傷患者治療の現場の視察訪問。氏家教授によれば日本の水準の治療が実施されていた。しかし、事故から2週間目には治療が困難な感染症発生の時期を迎えるため、死者が出ることも予想され

## 台湾粉じん爆発被災者救援～医療支援外交の幕開け



台湾医師会の蘇会長(左から5人目)、台湾路竹会の劉会長(右から4人目)らとともに

た。病院医師団とのミーティングで、台北市北部の5カ所の熱傷患者受け入れ医療機関で日本から「10人の医師と40人の看護師の派遣」があれば助かるとのコメントがあった。驚いたことに夕方のテ

定があることを知った。医療支援が人道支援外交

そのものに状況は展開している。日本医師会には根拠として、東日本大震災被災者

事態が急速に進展。7月4日。台湾政府衛生福利部は台湾の医師の下に、日本人医師の治療行為を今回に限るという条件で認めた。8日。蘇清泉台湾医師会長から医療チーム派遣要請を受けた日本医師会が日本熱傷学会、日本救急医学会、日本集中治療医学会に医療チーム派遣を要請。12日。熱傷治療専門家6人による第1次医療チームが台北市松山空港へ飛んだ。台湾側からの要請があれば第2次医療チームが派遣される。

30日には、日本医師会と台湾医師会が災害相互支援協定を結んだ。日本医師会は各国医師会にこの協定を拡大し、国際災害支援医療チーム「International Japan Medical Association」(International Japan Medical Association)を派遣す(AMDAグループ代表)